コミュニティ・スクールに 取り組んで思ったこと

学校教育だけで、子どもたちの望ましい成長は難しい と考えます。学校、家庭、地域が、それぞれの役割を果た しながら成長をサポートしたいです。協議会設立を機 に、本来の役割と取り組みを見直しています。例えば、小 中学生が行う「クリーン八千代」の取り組みでは、地域 の方と関わる機会はなく、望ましい形ではありませんで した。今後は、地域の一斉清掃への子どもたちの参加を 後押しして、地域に貢献する機会を作りたいです。学校 で学んだことを地域で実践することで、生きて働く力を 身につけさせたいです。



八千代中学校校長 吉貞 至誠さん



八千代中学校 PTA会長 二山 義夫さん

PTAは、学校の運営方針や生徒の状況などはだいたい 分かります。ただ、地域と密接に関わる活動はしていませ ん。正直、どんな方がいるのかもよく分かっていませんでし た。この取り組みを機に、地域の方と話す機会も増え、一体 感が生まれたように感じています。課題はまだ遠慮がある こと。顔を合わせる機会を増やし、何でも言いやすい人間 関係づくりにも努めていきたいと思います。今年度は初め てということもあり、すべて手探り。来年度はステップアッ プして、具体的な行動に繋げていきたいですね。子どもた ちにとってプラスになる活動になればいいと思います。

地域振興会では、まずこの取り組みの第一歩として、子ど もたちへあいさつを行いました。いつものウォーキングを子 どもたちの登下校の時間に合わせたりして、できるだけ子 どもたちに接する機会を持ちました。あいさつだけでなく、 防犯にも繋がります。まずは大人からあいさつをするのが ポイント。大人が見本を見せることで、子どもたちも変わっ ていきます。子どもたちの表情も豊かになり、徐々に地域の ことを意識し始めたのを感じています。私は、学校に勤めて いたので、地域の気持ちも学校の気持ちも両方分かる立 場。架け橋としてこれからも両者を繋いでいきたいです。



地域振興会会長 久保野 哲也さん

問教育委員会事務局 学校教育課 学校教育指導係 ☎・お太助フォン 42-5628

令和2年度からコミュニティ・スクールをはじめます!

コミュニティ・スクールの魅力

- 学校体制がかわっても、地域との組織的な連 携・協働体制がそのまま継続できる「持続可能 な仕組み」です。
- 2 子どもたちがどんな課題を抱えているか、地域 でどのような子どもを育てていくのか、何を実 現するのかなどの「目標・ビジョンを共有」でき ます。
- 学校や地域・子どもたちが抱える課題に対して 関係者が当事者意識を持ち、「役割分担をもっ て連携・協働による取り組み」ができます。

令和2年度から市内全域に、学校と地域が協働し て子どもたちを支える学校づくりを進める「コミュニ ティ・スクール | の立ち上げを進めています。児童・生 徒の保護者や地域の方が積極的に学校と関わり、子 どもたちの将来像を共有し、同じ方向を向いて自分 たちにできることを、それぞれが考えて行動に移すと いうもの。学校は地域の方や企業などの協力を得た 学校運営が進めやすくなり、地域は地域を担う人材 の育成や地域の活性化に繋がるなど、互いにメリッ トのある取り組みです。令和元年度、モデルケースと して八千代中学校区で実施されました。初めてコ ミュニティ・スクールに取り組んだ学校、保護者、地 域の方の代表に感想を伺いました。

■ 目標共有

- ・こんな子どもに育ってほしい! こんな学校を創りたい!

4 振り返る

・うまくいったことは? ・次はどんなことをしたらよいかな?

3 実行

- ・自分たちの役割を実践!
- ・子どもと一緒にチャレンジ!

・こんなことやってみよう! ・私たちはこんなことができるよ!

2 話し合い

みんなにメリット!

子ども たち

- ▶子どもたちの学びや 体験活動が充実
- ▶自己肯定感や他人を 思いやる心の育成
- ▶地域の担い手として の自覚の高まり
- ▶防犯・防災等の対策 による安心・安全な生 活の担保



- ▶地域の人々の理解と 協力を得た学校運営
- ▶地域人材を活用した 教育活動が充実
- ▶地域との協力で子ど もと向き合う時間の



- ▶学校や地域に対する 理解の深まり
- ▶地域の中で子どもたち が育てられる安心感
- ▶保護者同士や地域の 人々との人間関係の



- ▶経験を生かすことで 生きがいや自己有用 感の育成
- ▶学校を核とした地域 ネットワーク形成で 地域が活性化
- ▶地域の防犯・防災体 制等の活性化

広報 あきたかた 令和2年1月号